

全ての児童の可能性を引き出す「令和の日本型学校教育」の実現

～日常的な ICT 端末活用による「個別最適な学び」「協働的な学び」に向けた指導方法・教材の工夫改善～

厚沢部町立厚沢部小学校

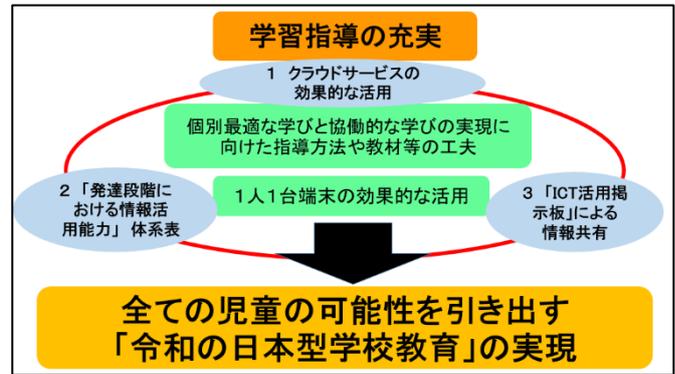
学 級 数 9

(校長 松村 浩良)

I 実践テーマの趣旨

本校は、本年度から「学校力向上に関する総合実践事業」の中核校となり、町内の小学校3校と中学校1校が1つのチームとなり取組を進めている。

「教科の学びを深める」「教科の学びの本質に迫る」ための ICT 端末を活用した授業改善を教師が情報共有しながら進めるとともに、「教科の学びをつなぐ」「社会課題等の解決や一人一人の夢の実現に活かす」ことを意識した教育活動を展開することによって、全ての児童の可能性を引き出す「令和の日本型学校教育」の実現が可能になると考え、「学習指導の充実」を重点実践テーマとし、クラウドを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向け、学校力向上を目指すこととした。



II 実践の概要

1 クラウドサービスの効果的な活用

教師はクラウドのアンケート機能を使って児童の実態を把握し、クラウドから児童が自分のレベルに合った学習プリントを選べるよう支援する取組を行っている。

その際、児童の情報活用能力の育成が図られるよう、「教育の情報化に関する手引」の IE-School に示されている「情報活用能力体系表」を基に「『発達段階における情報活用能力』体系表」として整備し、単元や授業における指導のねらいが明確になるよう教師間で共通理解を図るために活用している。

主な内容/学年	低学年	中学年	高学年	中学生
情報収集	身近なところで様々な情報を収集する方法	資料や調査から基本的な情報を収集する方法	実験・観察・調査から情報を収集し検証する方法	情報通信ネットワークなどから効果的な情報の検索と検証の方法 調査の設計方法
情報の見方	共通・相違・順序	考え・理由・全体と中心など 比較・分類	原因と結果 情報の関係づけ	意見と根拠、具体と抽象 情報整理の仕方(比較・分類、関係づけ)

【『発達段階における情報活用能力』体系表】

2 「『発達段階における情報活用能力』体系表」の活用

従来の「話し合い活動」のよさを活かしつつ「ICT」を加えることで、より効果的に互いの考えを共有し学びを深める取組を行っている。

これまでは、互いのノートを見せ合い、感想の交流に留まることが多かったが、クラウドを活用することによって、自分の意見を相手の端末に送り、送られた意見に対して自分の意見を付けて返す意見交換ができるようになるなど、児童が自分の考えを広げたり深めたりすることをより効果的に行うことで、「協働的な学び」を深めることにつながっている。



【クラウドを活用して学習したことを振り返る様子】

また、クラウドを活用することによって、学習の履歴が端末に残り、児童はいつでも振り返ることができるようになるとともに、教師は即時に評価することが可能となり、児童一人一人の学習状況に応じた「個別最適な学び」につながっている。

3 「ICT活用掲示板」による情報共有

「個別最適な学び」につながる取組として、例えば社会科の授業において、児童一人一人が、単元や本時において個別の課題を設定するとともに、クラウドの提出機能を使い課題を共有し、それらを踏まえて学級の課題を設定することに取り組んでいる。

また、デジタル教科書を使って課題解決に向けた情報を収集し、付箋機能を使って分類・整理するなど、課題を解決する学習となるよう指導方法の工夫・改善を行っている。

さらに、全ての教師がICT端末を効果的に活用した授業が行えるよう、それぞれの教師の実践を書き込むことのできる「ICT活用掲示板」を作成し情報共有している。この掲示板は、本校の教師であれば、誰でも閲覧可能であり、効果的なICTの活用方法の共有のほか、指導における活用に行っている場合に書き込み相談し合えるようにするなどして授業改善に取り組んでいる。

学年	教科	内容	効果
6	社会	・1人1台端末を活用し、ロイノート上でそれぞれに資料を送信。児童は手元で資料を確認できるので、グラフなど細かいところにも気付き、いろいろな考えを持つことにつながった。また、今までは資料を児童に配布していたが、ロイノートの活用で印刷する手間が省けた。	◎
3	理科	・iPadのカメラ内の機能であるタイムプラスを使って、植物の発芽の様子についておさめ、児童へ提示した。タイムプラスは、長時間撮影した映像を数十秒に変換してくれる機能なので、カメラを固定して写しているだけで誰でも使える。	◎

【ICT活用掲示板】

III 成果と課題

1 成果

本実践では、全ての児童の可能性を引き出す「令和の日本型学校教育」の実現に向け、3つの組織的な取組を行うことができた。

本実践の成果を検証するために、第3学年から第6学年の児童を対象に実施したアンケートでは、「タブレットが学習に役立っている」と回答した児童の割合は100%、「学習で自分の考えをもつときにタブレットは役立つ」と回答した児童の割合は96%となるなど、クラウドサービスなどを活用したことが、児童自身の肯定的な評価につながった。

また、「友だちの意見と比べるのに役立っている」、「タブレットを使った学習はこれからも行っていきたいですか」などの項目において肯定的な回答が90%を超えており、ICT端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」に関する肯定的な評価につながった。これらは、活用方法等について教師間で情報共有を行うことはもとより、試行錯誤しながらICT端末を活用した授業改善を組織的に行ってきた成果であり、学校力を高めることにもつながった。

2 課題

今後は、本実践における取組の成果と課題についての町内の小・中学校との共有が課題であり、そのために、町内の小・中学校において「基本操作」、「プログラミング」、「問題発見・解決」、「情報モラル」などの情報活用能力をバランスよく指導できるよう整理する必要がある。指導に当たっては、小中一貫教育の観点からも、「町内の小学校間で情報活用能力の差は生じていないか」など、町内の小・中学校において同じ指標を用いて自校の取組を評価するツールが必要と考えている。例えば、「情報活用検定」等を活用して児童に情報活用能力が身に付いているかを客観的に評価したり、町内の教員で交流の機会をもったりするなど町全体で組織的にICT端末活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」に向けた指導の工夫・改善の取組を推進していく必要がある。